

令和7年度

地域生涯学習活動実践交流セミナー

「多様な主体とのつながりから
生まれる社会教育の可能性」

上川管内社会教育主事会

1 上川管内の紹介



○北海道のほぼ中央に位置し、
地形は南北に細長い
(約224km!)

○面積は10,619km²
(全道の12.7%)

○山に囲まれた内陸地帯の盆地

○寒暖の差が極めて大きい気候

○「大雪山国立公園」を
はじめとした豊かな自然や
観光資源にも恵まれている

○自治体は23
(4市、17町、2村)

2 上川管内社会教育主事会

目的：社会教育主事等の専門機能を高めるための研修
並びに研究活動の推進

会員：55名
(北部21名、中部21名、南部13名)

※国立大雪青少年交流の家職員4名、
上川教育局社会教育指導班2名は含めず

現状：社会教育・社会体育関係部署の通算在籍年数は3.6年
3年未満の人数 **27**名（約半数）
5年未満だと**43**名に（約8割）



年々、社会教育部署経験の少ない会員が増えている

3 研究テーマ

【メインテーマ】

「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

【サブテーマ】

「各ブロックの特色を生かした社会教育のあり方」



管内は広く、なかなか集まっての研修が進まない…
全体研修だけでなく、ブロックに分けてそれぞれで研修を進めることに

※これまでのブロック別研修から

- (1) 北部（9市町村）…市町村を跨いだ講師情報の共有、
「社会教育士」との連携 など
- (2) 中部（9市町）…市町村を跨いだ連携 など
- (3) 南部（5市町村）…富良野圏域での連携、オンラインでの事業展開
Eスポーツの活用 など

4 上川管内のこれまでの取組

「持続可能な社会の実現に向け、地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」



「地域の可能性を引き出す学び」って何だ？

【全体研修において】

「社会教育行政」から「社会教育」へ

「学び」の機会を生み出すのはだれ？

社会教育行政「だけ」で学びの機会をつくるわけではない！
私たちも、色々な視点から「社会教育」を捉え直そう！

大学などの
高等教育機関？

団体・民間企業？

首長部局？

社会教育士？

地域おこし
協力隊？

4 上川管内のこれまでの取組

【令和5年度】

- 「これからの時代と社会教育主事の役割」
- 「障がい者の生涯学習の推進に向けて」
- 「アダプテッドスポーツ」

大学の先生から学ぶ

【令和6年度】

- 「地域を元気にするために
～地域にきっかけを生む視点の変化～」
- 「行政と社会教育士の連携」

民間企業や社会教育士から学ぶ

【令和7年度】

- 「地域の可能性を引き出す学びをつくるために、
社会教育行政に求められること」
- 「持続可能なまちづくりに向けて、
社会教育でできること」

大学の先生から学ぶ

市民団体や地域おこし協力隊から学ぶ

5 取組事例

【その1】「大学の先生」に聞いてみよう（講義・演習）



「社会教育」等に精通する研究者を招き、社会教育のあり方を学び直す機会に

5 取組事例

【その2】「民間企業」に聞いてみよう（講義）



民間企業の視点で、地域の可能性
を考える（見つけ出す）機会に

5 取組事例

【その3】 「社会教育士」に聞いてみよう（トークセッション）



「士別市」は社会教育士が多い！

「社会教育士」の考えを聞くことで、行政との連携について考える

5 取組事例

【その4】 「地域おこし協力隊」 「市民団体」 に聞いてみよう



「それぞれの活動の中で、地域住民や行政とどのように関わってきたか」
「行政職員に伝えたいことは何か」を聞く機会に

6 参加者の感想

社会教育の基礎について
知ることができた

地域づくりへのアプローチを
どのようにすればよいか、
考えるきっかけになった

基礎の研修から考え方を
学ぶことができてよかった

視点を変えて様々な角度から
事業等を考える大切さを学んだ

(民間企業の)柔軟な
発想を養うことができた

公務員という枠組みにとら
われず、別の視点からのア
プローチが今後は必要

社会教育士の熱量が
すごく伝わった

社会教育士との連携を
より深める必要性を感じた

地域おこし協力隊の方々の勉強量が
すさまじい。スキルアップをして、
それを生かしているのが面白い

「社会教育の学び」は、「行政」だけで考えるのではなく、多様な主体とつながることで、その視点を生かしていくことが大切だということ学んだ

7 中部ブロックの研修

【その5】 「他市町村と連携した若手職員の研修」

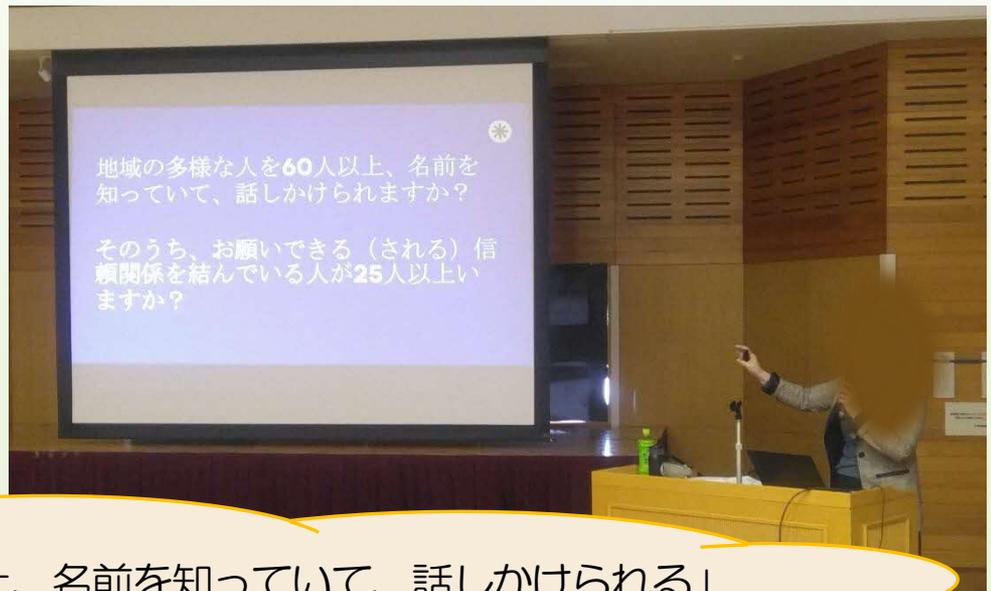
【かみかわマーブルタウン】



中部ブロック（旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町）の1市8町で協力し、「かみかわマーブルタウン」を実施→2日間で延人数151名の小学生が参加

7 中部ブロックの研修

【その6】 「まちの社会教育事業を再設計しよう」



「地域の多様な人を60人以上、名前を知っていて、話しかけられる」
「そのうちお願いできる（される）信頼関係を結んでいる人が25人以上いる」
→ 「人とのつながり」こそが社会教育担当者には必要

8 今後に向けて

○研究テーマ（令和5～9年度）

「持続可能な社会の実現に向け、

地域の可能性を引き出す学びをつくる社会教育のあり方」

○折り返し地点が過ぎ、今後の方向性をどうするか。



ここまで、行政以外の多様な「社会教育人材」から、新たな視点で「社会教育」を捉え直してきた

行政以外の視点を取り入れることで生まれる社会教育の可能性がある

これからは、自身の「まち」に立ち戻り、

これまでの研修をどのように「実践」に生かしていくか

事業の「**実践**」と「**検証**」が必要

新規主事会員の資質向上に向けた研修も、引き続き実施していく